

学習踏まえ記事活用

当日の新聞から興味を持った記事を選ぶ生徒
|| 志布志市の尚志館高校



地理の授業で「都市は生徒の食いつきが違」と人口」を学んでいた」と新納教諭。家庭特進科の1年生に、当日の新聞が配られた。記事などに触れる。

担当の新納隆教諭(41)は、興味を持った記事を選び、理由と感想を述べるよう求めた。発表した一人は、2040年度の大学進学者数にたいして、最近では新聞広告が現在より2割減るとのニュースに注目、少子化という国内の人口問題と関連付けた。通常は授業の導入部分で新聞記事を扱う。「使うのは必ず、当日の新聞。生のニュース」(見美川勝)

かごしま NIE実践校

鹿児島県内で2017年度、NIE(教育に新聞を)実践校に指定された小学校6校、中学校4校、高

校3校の計13校が新聞を使った授業などに取り組んだ。数回に分けて各校の実践を紹介する。



蒲生中学校 (始良市)

記事のあらすじや感想を書いたシートを読む生徒 || 始良市の蒲生中学校



輝北小学校 (鹿屋市)

スポーツをテーマに、気に入った写真新聞から探す4年生
|| 鹿屋市の輝北小学校

人物紹介執筆に挑戦

思考力や判断力、表現力の向上につなげようと、国語や社会、学級活動などで幅広く新聞を活用している。本年度は新たに、1年生が新聞の人物紹介欄を模した活動に取り組んだ。クラスメートの魅力を引き出し、文章にまとめる。国語科の吉松美穂教諭は「規定行数を埋めるには相当な情報量が必要。何度もインタビューしてまとめていく中で視点が広がった」と話す。社会は、時事問題や話題の記事を掲示板に張り出し、興味を引くようクイズも出題。各学級では朝や帰りの学活で、気になった記事の発表をしたり、記事を活用したスピーチをしたりしている。国語科の吉留美苗教諭は「今後は、これまでの取り組みを深めるとともに、いろいろな角度から考える力を伸ばせるよう、各紙の読み比べにも取り組んでいきたい」と話した。(山下博行)

ゲーム感覚で楽しく

全児童114人が月1回15分間、新聞に親しむ時間を設けている。実践校2年目。発達段階に合わせた活動を通して、楽しみながら、新聞に触れることに重点を置く。児童が楽しく学べるよう、ゲーム感覚での活動を多く取り入れている。1~3年生は、勉強中のひらがなやカタカナ、漢字の記事から探す。4~6年生は、都道府県、国の名前を記事から見つけ、その位置を地図と照らし合わせて確認する。4~6年生は家庭学習で、記事や写真について意見、感想をまとめていく。児童のワークシートなどは、階段の掲示板に貼ったNIEコーナーに張り出し、意欲の高まりを後押ししている。鶴重裕子校長は「子どもたちが『新聞にこんな記事が載っていた』と教えてくれるようになった。活字に触れる良い機会になっている」と話した。(福盛三南美)